城山エコミュージアム通信

平成２７年（２０１５）６．１５　第２４号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

久保沢とバスの思い出

地域紹介
久保沢編

城山地区の中央部に位置する久保沢。大正生まれの八木さんから、少し昔のお話を伺いました。

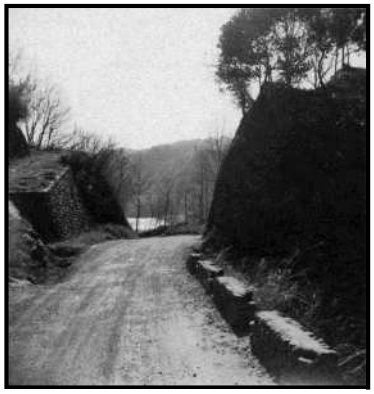
〝ちょっと昔〟のおはなし　おはなし 八木 薫さん

戦後の久保沢の様子

「ベントバコ自動車」こと銀色の四角いバスが停留所に近づくと、車掌さんがラッパを吹く。その音が「ベントバコ自動車」というように聞こえたので、子ども達は面白がって口真似をしてはしゃぎ廻りました。バスが走り始めた頃は乗合自動車といい、ベントバコ自動車は藤沢自動車といって橋本駅から久保沢を通り、中野（津久井）、与瀬（相模湖）間を往復していました。大正末期頃だったか、藤沢自動車が走り出す少し前には八木自動車が八王子・久保沢間を走っていました。八木自動車はすぐに中央自動車と名を替えた青い色をした自動車でした。久保沢・八王子間の折返し点は、木橋の頃の小倉橋のたもと、今もある桂川亭の下側にありました。木橋で車の通れるようなものではなかったので、そこで乗客には降りて橋を歩いて渡り、向こう側の半原から来ていた車に乗る。この繰り返しで、八王子・半原間の人の行き来は出来ていました。車の走り始めた頃は乗合自動車といっていましたが、ベントバコ自動車も銀バスとなった同じ頃、活動写真が映画となり、乗合自動車がバスとなって子どもの私達は新しい言葉に中々馴染めませんでした。

乗合自動車（場所は原宿）

久保沢に横町という所があり、そこに自動車の車庫と運転手の宿直の部屋がありました。バスの停留所が現在の場所に落ち着くまで、最初のうちは決まった停留所は無く、道のどこででも手を上げればバスは止まって乗せてくれたし、「家の前に来たので」と声を掛ければ降ろしてくれました。久保沢の停留所は津久井の方へ行く三叉路の角に高橋という豆腐屋があったところが最初の停留所で、２つ目は横丁といわれた谷ヶ原に向かう角にあった小間物屋の店先が停留所になっていました。３つ目は戦争中で今の広瀬病院のあるところに都代田といった酒造店があって、そこの大きな門が停留所となっていました。戦後になって今の停留所となり、一時期「久保沢駅」といったこともありました。（取材協力・樋口孝治／担当・山口雅之）



久保沢～小倉間の道

今回のトピック ■地域紹介「久保沢編」■伝統芸能ピックアップ「城山のお囃子」■シリーズ養蚕 ■城山探訪「アカシアの花の咲く頃」等

伝統芸能ピックアップ

城山のお囃子

お囃子競演（平成２６年８月２８日）の様子

「城山夏祭り」（川尻八幡宮例大祭）の２日間、町中がお囃子の音に包まれます。現在、城山地区には原宿はやし保存会、若葉台囃子連、谷ケ原囃子連、春日はやし連、町屋はやし連、小松はやし連、都畑はやし連、久保澤囃子保存会、向原囃子連、中澤囃子連の１０の加盟団体があり、子どもから高齢者まで幅広い年齢の６４８名が在籍、活動しています。

１９８８年に親睦と連携を図り技術の向上と伝統芸能としての発展を図ることを目的に「城山町祭囃子連絡協議会」を設立し、例大祭だけでなく城山もみじまつりや津久井湖やまびこ祭りなどのイベントにも参加し腕を振るっています。また、２年に一度「お囃子の集い」を開催。今年は５月１７日に川尻八幡宮神楽殿で１０団体２５０人あまりが参加し、各団体が日ごろ練習している踊りやお囃子を披露しました。８月２８日には、同協議会加盟団体によるお囃子競演があり、大変賑わいます。ぜひお出かけください。（田畑 房枝）

★協力者紹介：城山町祭囃子連絡協議会　会長　佐藤 真佐昭さん
今回の記事作成に大変ご協力頂きました。ありがとうございました。

地域の養蚕に関わっていた方から伺ったお話を掲載する連載コーナー

第２回　「蚕の一生」

齋藤（さいとう）　敏男（としお）さん（元養蚕組合長）へのインタビューから

蚕の幼虫はお蚕様（おこさま）と呼んで大切にされていた。蚕の初齢の飼育は難しいため、昭和 26 年に稚蚕飼育所ができて、飼育所でまとめて飼育しある程度成長した後に、養蚕農家各戸が幼虫を購入する方式になった。蚕は桑の葉を食べて成長し眠りにつき（順に初眠、二眠、三眠、四眠）、眠りから覚めると脱皮を繰り返して成長した。蚕の初齢の頃は先端の柔らかい葉を与え、蚕の成長に合わせて桑も大きく硬くなったものを与えたがその量も膨大なものとなった。また、成長すると蚕がする糞の量も多くなり、糞をとり除く除沙（じょさ）作業はとても大変だった。ひきる頃（5 齢の幼虫が蛹（さなぎ）になる直前、体の色が飴色を帯びる）になると、家族以外にも近所の人にも手伝っていただき蔟（まぶし）に移した。蔟は初めのうちは粗朶（そだ）を集めて作ったが、その後藁を用いて作ったものを使った。回転蔟が発明されるとひきる頃に一度に蔟に移せるようになり、効率が上がった。出来上がった繭は農協に納め、農協から一括して製糸工場へと納めらたようだ。（山口 雅之）

＊「どどめ（桑の実）を食べて口の周りを汚し親に叱られた」
とはよく聞く話だが、養蚕農家では桑の枝葉は蚕の餌として収穫し使われたため、桑の実がなるまで枝が放っておかれることはなかったようだ。

城山探訪　「アカシアの花の咲く頃」（都井沢隧道周辺）

「若葉台」発の「橋本駅」行きバスはまず都井沢隧道（トンネル）に入る。トンネル出口は若葉台５丁目の南斜面の下の方にあり、バスはここで左折するが、この道は城山湖（本沢調整池）行きの道路だから、ここには信号がある。赤信号の時など前方を注視していると、白い花が眼に入る。５月上旬、アカシアの花が咲き始めたのだ。

この道は広陵小学校の通学路

アカシアと呼んだが、正しくは「ニセアカシア」、一般的にアカシアと呼ばれている。

ニセアカシアは北アメリカ原産のマメ科の喬木（高く大きく成長する木）で、材質も堅く、成長が早いのに丈夫で腐りにくいから、工事現場や炭鉱の坑道の土留めなどに使われ、日本には明治１０年代に広がったといわれている。

川沿いや山の斜面などに多いのは、土留めに用いられたことや、マメ科で繁殖力が強いせいだろう。マメ科植物は根に共棲する「根粒バクテリア*」が空気中の窒素から（宿主植物に必要な）窒素化合物を作ってくれる。

歌謡曲などで歌われる「アカシア」はニセアカシアだろう。ニセではない、トゲのないアカシアは槐（エンジュ）だが、ホンモノのアカシアの木はずっと少なく、繁殖力も弱い。

さて、アカシアの花だが、当地では５月上旬に咲き始める。普門寺東斜面の広陵小学校通学路（通称・普門寺のジグザグ道）、都井沢トンネル南側の東斜面の通学路（通称・都井沢通学路）にはニセアカシアの大きな木が緑陰を作っており、花が咲きだすととても良い香りを漂わせてくれる。この白い花の房に薄くコロモをつけて天ぷらに揚げると美味だ。

花は白くて小さい

昭和３０年代、乳牛が増えた一時代があったが、ニセアカシアの若葉は乳牛の餌としてタンパク価が高いからと推奨されていた。アカシアの花が散ると梅雨も近い。（加藤　正彦）

* 空気中に窒素はたくさんありますが、それを利用できるように窒素を固定するというのが根粒バクテリアの働きです

都井沢隧道へのアクセス

バス停「都井沢」下車　若葉台方面　徒歩約５分

知ってナットク！
しろやま

城山検定

問　題

東林寺(葉山島地区)の境内にある浅間神社は、何の神様として信仰を集めたのでしょうか？

① 養蚕　　② 雨乞い　　③ 賭け事

（出題者：齋藤　雄也）

INFORMATION

■ 平成２７年度総会を開催しました

４月２５日（土）、平成２７年度相模原市城山エコミュージアム運営委員会総会を開催しました。

内容は、平成２６年度事業結果報告、今年度事業計画、役員の選出等を行いました。委員長、副委員長は、昨年度に引き続き続投となります。今年度も城山エコミュージアムをよろしくお願いいたします。

役員紹介

委員長　　塩谷　弘道（再任）

副委員長　樋口　孝治（再任）

■ 平成 27 年度 城山エコミュージアムツアー

開催日が決定しました

開催日：**平成 27 年 10 月 24 日（土）**

（雨天の場合は、10 月 25 日（日）に順延）

申込期間：平成 27 年 9 月 1 日（火）～9 月 30 日（水）

※テーマ・会場等詳しい内容は次号お知らせします

次号通信は、９月１５日頃発行予定です

城山検定 解説

答え：養蚕

浅間神社の本源は、富士山頂にある浅間神社ですが、富士浅間神社の祭神の木花開耶媛命(このはなさくやひめのみこと)が養蚕の神でもあることから、養蚕業の普及と共に盛んに信仰を集めていました。

また、葉山島では江戸時代、富士講による富士信仰も盛んでした。

参考文献：『城山町史』４　資料編民俗(昭和 63 年　城山町教育委員会)

（齋藤　雄也）

当会では、今年も有志で養蚕研究の一環として、カイコの飼育に挑戦しています

しろやまミニ図鑑　カタツムリ（蝸牛）

「カタツムリ」というと、雨の中アジサイの葉の上にいる様子を思い浮かべます。そこで、アジサイの周りを探しましたが見つからず、家の裏の石垣を見たら、いました！大きなカタツムリ！日本では昔から童謡や狂言の演目になるほど身近な生きものですが、最近ではめったに見かけなくなりました。雨の季節、ゆっくりゆっくり歩く（？）カタツムリをのんびりゆったり探してみてはいかがでしょうか。（金子　直美）

ヒダリマキマイマイ

編集後記

世界遺産に日本の近代遺産群が推薦されたニュースがありました。

城山地区にも横浜隧道跡など日本の近代化を支えた遺構が残っています。一度足を運んでみてください。（齋藤　雄也）

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発　行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見る時は

相模原市　城山エコミュージアム　検索

相模原市立城山公民館ホームページ

http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html